

おら^{どお}Doの協^{きょうどう}Do!

～人と人が集まり、出会いとつながりが
広がる中で生まれる「おもっせえ」おおつち～

協働による地域・まちづくりを実践し、
人と人との出会いやつながりを生み出
している「おもっせえ」人や活動を紹
介します。みんなやっべし協働!

はじまりは復興支援 転機は支援への恩返し 地域で創る「参加型」の夢花火



アナウンスを務めた地元出身の
上山華歩さん（右）



雨の中花火の設置をする
大仙市の花火師の皆さん

9月23日（金）、吉里吉里の空を1200発の花火
が彩りました。

この花火大会が始まったのは2014年。秋田県大
仙市の平和中学校が防災教育のため吉里吉里地区を訪
れたことが縁で交流が始まり、大仙市の花火師の皆さ
んが復興支援の花火大会を開催してくれました。

5年間に渡り開催され、いったん終了していた花火
大会。しかし3年前、コロナ禍により花火師の仕事が
減っていることを聞いた吉里吉里地区の有志により、
「支援への恩返し」として花火大会を復活させました。

住民や事業所の寄付により開催してきましたが、今
年は吉里吉里学園中学部が、資源物回収やワカメ販売
などのお金を寄付。さらに一般の寄付率は地区全世帯
の89%を超えました。実行委員長を務める芳賀光さん
は「自分たちで協力した花火がこの中が上がっている
と思つて楽しみに見ることが、盛り上がるの理由
の一つ」と、住民みんなの「参加型」の花火大会であ
ることを強調します。

寄付だけでなく、草刈り作業、中学生のワカメ販売、
当日は本部設営や音響、地区へのアナウンス、消防団
による広報や警備誘導、終了後の清掃。さらに花火の
選曲は、子どもたちのアンケートで決めるなど、まさ
に住民それぞれの役割で力を出し合い創り上げます。

この協働の担い手の1人、（株）北日本花火興業の
今野義和社長は「今年もやると聞いた時とても嬉しか
った。ますます明るく、喜びあふれる町になることを
願つて花火を打ち上げる」と地域に呼びかけました。

終了後には、消防団とともに花火師を最後まで見送
る中学生、高校生の姿が。縁がつかないだ花火大会を通
して、地域の手も次世代へ受け継がれていきます。